

大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための住民懇談会(第2回)での意見・要望

【第1回】

日時	平成27年11月7日(土) 午後10時～11時40分
場所	金ヶ瀬公民館会議室
参加者	6名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①一番大事なのは税金の使い方だと思う。予算がかかる項目が多いがどう考えているのか。
- ②若い世代の4割が非正規就業しているのが現状。収入がなければ子どもを産めず少子化は治らないので、保育料などを考えてほしい。大河原に住んでみたくなるような施策が必要だと思う。ファミサポがあれば安心だし、防犯カメラも前倒しで検討してほしい。

○男性

- ①現在遊休状態の農地は害獣が多いなど理由があって耕作されていない土地なので生産性はない。そこに人を呼び込んでどうする考えか。
- ②生活ができないと人はこないと思う。新規就農者として呼び込むのは町内からか、それとも他の地域からか。
- ③新たな特産物とはどんなものか。

○男性

- ①若い人が地域に残らない。職場が通えるほど近いところがあれば町内に家も建てられる。
- ②桜をもっと全国にアピールするべき。

○男性

- ①住みよい、魅力ある町とは、年代によっても違うが、安心して生活できる町だと思う。小さな子どもがいれば保育所の充足、学校に上がればいじめがなくレベルの高い授業、成人したら安心して住んで仕事もある、年を取ったらデイサービスの充実など。えずこホールや体育館の活用が低調と思えるので、もっと住民が参加できるよう、ソフト面に力を入れてもらいたい。

○男性

(要望)空き家への移住対策をやってほしい。できれば若く子育てできる世代を。

○男性

- ①企業誘致、工業団地はどのようなPRを行うのか。

○男性

- ①今回の資料を区の総会でも配布してほしい。
- ②転入者・転出者にその理由を尋ねるアンケートを実施したらどうか。
- ③梅栽培農家は高齢化で草刈りや剪定が大変なので、桜のように柴田農林高校に実習として頼めないか。興味を持ってもらえれば就業にもつながるのではないか。

【第2回】

日 時	平成 27 年 11 月 7 日（土） 午後 1 時～2 時 30 分
場 所	大河原町役場大会議室
参加者	7 名
出席者	伊勢町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

①プロジェクトチームはどんな団体なのか。

○男性

①戦略の最終年度である 2060 年の施策の評価はどうするのか。何か目標はあるのか。

○男性

①大河原らしい計画が埋もれているのではないか。

②ワーク・ライフ・バランスとは何か。結婚や非正規雇用問題にも触れていない。

○男性

①企業誘致 2 社を目標にするとあるが具体的には。

②企業誘致は町内に限らず他町とも連携して PR する必要があるのではないか。

○男性

①若い人のプロジェクトチームを今後も存続させてほしい。

○男性

①戦略とは別に、新古川の遊休地を元気な高齢者などに耕作してもらい、調理して独居高齢者などに配達するしくみをつくってほしい。雇用が生まれるし、高齢者の溜り場づくりになるとともに、人の循環もできるのではないか。

【第3回】

日時	平成27年11月7日(土) 午後3時30分～5時
場所	世代交流いきいきプラザ多目的ホール
参加者	11名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①空き家への移住を募るにしてもリフォーム費用補助だけではメリットが少ないのではないかな。
- ②介護を全うした人を表彰するのではなく、介護者が疲弊しないように支援策を拡充すべき。
- ③企業誘致が地元雇用に結び付かないと問題解決にならない。結婚・出産につながるので、予算を生み出しながら実施することが大事である。

○男性

- ①計画は素晴らしいが町単独ではできないものも多いと思う。第3子の養育費支給や固定資産税を減免するなどの施策も必要ではないかな。

○男性

- ①蔵王町の老人憩いの家のように子どもと老人が集まれる温泉施設を作ってほしい。

○女性

- ①懇談会の参加者の少なさにショックを受けた。いきいきプラザは飲食できる集いの場と思ったができないということで残念。戦略にある「土日開放」をぜひ進めてほしい。

○男性

- ①桜町地区は人口が増えており、大河原町はそんなに悲観しないでもよいのではないかな。

○男性

- ①桜まつりなどのボランティアガイドについて、客の立場から見るともう少し歴史的背景を知りたい人が多いようだ。大河原だけでなく柴田町との連合で共通認識のもと育成を願いたい。

○男性

- ①戦略の事業に国からの補助金はあるのかな。